

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110 A-161	22-047	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Acute injury mortality and all-cause mortality following emergency department presentation for alcohol use disorder アルコール使用障害による救急受診後の急性外傷死亡率および全死因死亡率		
執筆者		
Goldman-Mellor S, Olfson M, Schoenbaum M.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2022 Jul 1;236:109472. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2022.109472.		
キーワード	PMID	
救急受診、アルコール、死亡率、外傷	35490593	
要 旨		
<p>目的: アメリカでは、アルコール関連疾患の罹患率および死亡率が大幅に増加している。急性死亡リスクが高い飲酒者を特定することは非常に重要と考えられる。本研究では、救急受診したアルコール使用障害 (AUD)患者の急性外傷死亡率および全死因死亡率を明らかにした。</p> <p>方法: 本研究では、カルフォルニア州において、2009-2011年に救急科受診した全患者を対象とし、カルフォルニア州保険計画開発局 (OSHPD)から取得した退院データおよび死亡データを用いた。対象者は期間中に少なくとも1回のAUDの診断を受けた患者とし、救急科受診後1年間追跡し、急性傷害 (不慮の中毒、自殺、殺人、自動車事故、転倒または火災関連の傷害) および10万人年あたりの全原因死亡率を算出した。さらに、州全体の死亡率データを使用し、急性傷害死因の年齢、性別、人種で調整された標準化死亡率 (SMR)を算出した。</p> <p>結果: AUDによる救急科外来受診者437855人のうち、追跡後1年の急性外傷死亡率は608.6/10万 (SMR=8.0; 95%信頼区間 [CI]=7.7-8.3)、全原因死亡率は5700.7/10万 (SMR=6.5; 95%CI=6.4-6.6)であった。急性外傷による死亡は、10-24歳において全死因死亡率の71.7%を占めたが、25-44歳では33.6%、45-64歳では11.4%、65歳以上では3.0%と低かった。これらすべての死亡率は男性に比べ女性で低かった。</p> <p>結論: AUDを有する救急科受診患者は、受診後の死亡リスクが高かった。また、薬物中毒や自殺などによる死亡率は年齢により異なった。今後、臨床的な介入方法を検討することが必要と考えられる。</p>		